

第33期 第2回 小田原市図書館協議会 概要

- 1 日時 平成31年2月7日(木) 14時から16時15分まで
- 2 場所 小田原市立かもめ図書館2階 研修室
- 3 出席者 野口委員長、益田副委員長、石井委員、大塚委員、角田委員、馬見塚委員、佐々木委員、池田委員、遠藤文化部副部長、古矢図書館長、野村副館長、一寸木副館長、内田係長、遠藤係長、石井係長 藤岡主任
- 4 傍聴者 3人
- 5 次第
 - (1) 文化部副部長あいさつ
 - (2) 報告事項
 - ア 図書館行事の結果について(10月～12月) 【資料1】
 - イ 図書館行事の予定について(1月～3月) 【資料2】
 - ウ 市議会(12月定例会)報告について 【資料3】
 - エ 「白秋童謡100年」事業の実績について 【資料4】
 - オ 平成30年度「利用者の声」について 【資料5】
(市立の図書館への「国立国会図書館のデジタル化資料送信サービス」の導入・改善要望にかかるとる図書館の考へについて)
 - (3) 協議事項
 - ア 小田原市図書館運営方針等について 【資料6】
 - イ (仮称)小田原駅東口図書館の整備について 【資料7】
 - ウ 小田原市図書館条例の一部を改正する等の条例(案)について 【資料8】
 - エ 小田原市附属機関設置条例の一部改正(案)について 【資料9】
 - (4) その他
- 6 概要

遠藤文化部副部長のあいさつ後、次第に基づき議事に入った。

報告事項については、アからウまでを一括して質疑を行った。

(2) 報告事項

- ア 図書館行事の結果について(10月～12月) 【資料1】
- イ 図書館行事の予定について(1月～3月) 【資料2】
- ウ 市議会(12月定例会)報告について 【資料3】

佐々木委員 市議会(12月定例会)報告であるが、旧保健所跡地の整備の見込みを伺いたい。

図書館長 神奈川県から土地を取得した条件として土地の引渡し日から10年間は文化・生涯学習施設用地に供するものとされており、10年の間に施設を整備して利用しなければならないとなっているが、施設の内容等は検討が必要であると考えている。

野口委員長 「第3回小田原市図書館を使った調べる学習コンクール」の結果であるが、小田原市から全国コンクールに推薦された作品は佳作になったとのことである。年々、応募作品も増えており、次回も多くの良い作品が集まることを期待したい。

エ 「白秋童謡100年」事業の実績について【資料4】

事務局から報告した後、質疑を行った。

角田委員 私も「白秋童謡館再オープン記念イベント」に参加したが、参加者が少ないことを残念に思った。例えば、近くの幼稚園や北原白秋ゆかりの幼稚園に協力をお願いして園児と保護者が一緒に童謡を歌うような企画があればより充実したイベントになったと感じた。今後の参考にさせていただければと思う。

大塚委員 「白秋童謡100年」事業への協力先一覧に記載されていないが、NPO法人小田原映画祭シネマトピアでも積極的にパンフレットにロゴマークを使用するとともに、チラシを配布した。また、銅門の野外上映会でミニライブを開催した時にも白秋の詩を取り上げるなど協力させていただいた。白秋童謡を小田原の財産として、今後も、さまざまな機会を通じてPRに取り組んでまいりたい。

野口委員長 「白秋童謡100年」事業への協力団体等は図書館からお願いしたものか。

図書館長 図書館から働きかけた団体と、逆に団体からの申し出でロゴマークの活用やチラシの配布に協力をいただいたこともある。小田原は図書館業務の中で文学の分野が大きな割合を占めている。昭和8年に開館した図書館が文化の中心を担って多くの人との交流を通じて市民の成長に寄与してきた経緯もあり、文学を通して小田原のまちの振興に寄与することが図書館の大きな役割の1つとして使命感を持って取り組んできた。昨年は、全国的な赤い鳥100年記念事業とあわせて、小田原と北原白秋との関係がNHKテレビをはじめ、新聞や雑誌などで数多く取り上げてもらったことで大きな成果があったものと考えている。

野口委員長 小田原文学館を図書館が管理していることも、小田原の図書館の魅力の1つと思う。新しい図書館も含めて、今後も図書館の魅力を高めていただきたい。

池田委員 「白秋童謡100年」事業の協力先一覧で文化政策課の「オトハコHAPPYコンサート」の企画運営に携わったが、コンサートで白秋童謡メドレーを歌ってもらったところ大変好評であった。また、郷土文化館（板橋まちなみファクトリー内野邸プロジェクト実行委員会）によるイベントが掲載されているが、このイベントで使用したレコードは市立図書館所蔵の古いものが使用されたのか。

図書館長 個人所有のレコードが使用されたと思う。

益田副委員長 今後、白秋童謡100年事業の取組はどうなるのか。

図書館長 小田原市での白秋にかかる取組は、平成12年に実施した童謡コンクールや没後90年の機会にも行われたが、今年度の取組が最も大きく、この盛り上がりを継続していくことが大切である。白秋童謡100年事業を通じて、新しいつながりや映画「こ

の道」の公開により柳川市との交流の機会を得たので、今後も継続してさまざまな機会を通じて情報発信に努めていきたい。また、身近なところであるが、ごみ収集車のメロディを白秋童謡に変更しているので気に留めていただければと思う。

オ 平成30年度「利用者の声」について【資料5】

事務局から報告した後、質疑を行った。

馬見塚委員 利用者マナーは社会的に難しい問題であるが、本来は、大声を出している人がいれば「控えてもらいたい」と利用者同士で声を掛けることが常識であり、そうありたいと思う。図書館がすべてを抱え込むのではなく、利用者同士で声を掛け合うことが本来の姿であることを忘れないでもらいたい。先ほど、私がかもめ図書館で本を読んでいた隣の人が靴を脱いで私に足を向けて本を読み始めたので、声を掛けたら笑顔を見せて足の向きを直してくれた。難しいことと思うが、こうした利用者同士の関係が築けたらよいと思う。

角田委員 利用者の方から新聞の書評欄に掲載されている本が見当たらないので機会があれば図書館に伝えてもらいたいとの話があった。

野口委員長 市民の方から本のリクエストは受け付けているのか。

図書館長 リクエストは受け付けているが、購入予定があっても流通の関係で図書館への納品が遅れることもある。先日も通販限定の本であったという事例があった。必ずすべてを購入できるわけではないが、リクエストも活用しながら本を提供していきたい。

馬見塚委員 書評を活用した本の宣伝もあるので、よく見極めて選書していただければと思う。

池田委員 資料5に、うがいや大声での会話などが掲載されているが、新しい図書館の整備に伴い、あらかじめ「利用者の声」などにも留意し、どのような雰囲気の図書館にするのかということを検討してもらいたい。スタート時の対応が重要であると思う。

野口委員長 利用者の意見は、図書館側にしても利用者が求めていることを知る重要なきっかけになると思うので、今後も大切にしてもらいたい。経年的に見ると、利用者の声の件数は増えているのか。

図書館長 今年度は、猛暑の影響で冷房設備に関する声が多くあった。この他、小田原市の広聴事業（FAQシステム）を通じてメールや手紙でのご意見もお寄せいただくが、注意喚起に関するものが多い状況である。「利用者の声」は1年保存としているため、29年度の件数しか数えられず、これまでの件数は数えていない。

(2) 報告事項

市立の図書施設への「国立国会図書館のデジタル化資料送信サービス」の導入・改善要望にかかる図書館の考え（図書館協議会資料4-2）について【追加資料】

事務局から資料（4-2）の差し替えについて報告した後、質疑を行った。

佐々木委員 図書館協議会資料4-2については、図書館の対応として館内に掲示するのか、あるいは内部資料とするのか。

一寸木副館長 図書館協議会資料については、市として審議会、協議会を所管する担当課に議事録と一緒に提出して情報公開されるものである。図書館内への掲示は考えていない。

佐々木委員 要望事項への対応は、図書館として実施するかどうかの方針及びその理由を明確に説明することが重要であり、この資料修正で良いと思う。

一寸木副館長 要望者とは図書館としての考えに基づき適切に対応していきたい。

(3) 協議事項

ア 小田原市図書館運営方針等について【資料6】

事務局から資料6に基づいて説明した後、質疑応答を行った。

佐々木委員 充実したレファレンスと記載されているが、かもめ図書館でのレファレンスサービスの現状を伺いたい。

図書館長 かもめ図書館の窓口業務は委託しているので委託業者の職員が対応しているが、書籍の有無や〇〇さんの書いた本の有無などの質問が多い。市立図書館では自分の先祖を調べるための資料や、主に歴史関係のことを調べるための資料を求められることが多い。

野村副館長 市立図書館では歴史的資料の問い合わせには地域資料室が対応しているが、図書に絡む問い合わせとしては、例えば、小田原合戦で千利休が竹筒で作った花入れに関する資料の有無を聞かれたことがあり、利用者と一緒に調べたところ茶道具の図鑑に掲載されていた。専門知識を持った方へのレファレンス対応は難しいが、職員にはできるだけ寄り添った対応をするよう指導している。

佐々木委員 小田原駅東口図書館は現役サラリーマンから子育て中のお母さんまで幅広い課題に対応したレファレンスサービスの充実が課題だと思う。お城通り地区再開発事業広域交流施設にはさまざまな都市機能が集中しているので幅広いニーズが寄せられると思うが、ニーズに対応できる図書館になることを期待している。

角田委員 今、世界から忍者が注目されており、歴史に興味を持つ女性も増えている。市民だけでなく、国内外からレファレンスのニーズが寄せられる可能性があるため、さまざまなレファレンスに対応できる職員の育成をお願いしたい。

野口委員長 インバウンドの方も増えているが、欧米人は日常的に図書館を利用しているので図書館に行けば何でも調べられると考えている。駅の近くに図書館があると寄ってくる可能性がある。その際にレファレンスも多言語対応が求められる気がする。何十か国も対応することは難しいと思うが、英語対応のスキルは求められると思う。

佐々木委員 指定管理者にはノウハウの蓄積が期待できると思うので、市として指定管理者に期待する事項をまとめておく必要があると思う。

図書館長 指定管理者については、ノウハウの蓄積や全国的な事例の共有化、共有した情報を反映しやすいことが導入理由の1つである。今後、指定管理者の選定に伴う仕様書を作成していくので次回以降の協議会で指定管理者への要求事項についての意見を伺

いたい。その前段として東口図書館の重点的な方針をお示し、ご意見を伺っている。

先ほど、忍者の話もあったが、小田原市は忍者関係の貴重な資料を有していることから、現在も海外から問い合わせがある。資料本体はかもめ図書館で所蔵するが、どの程度の忍者関係の情報をかもめ図書館で所蔵しているのかということをお示し、東口図書館で案内できるよう指定管理者と情報共有する研修等を行っていききたい。

野村副館長 所蔵資料によってレファレンス内容が異なるが、一般化されているツールを使うことが共有化されるべきである。国立国会図書館のレファレンス協同データベースでレファレンス事例などをまとめたツールがあるので熟知することが重要である。

池田委員 重点方針の中でレファレンスサービスの提供ということが印象に残った。地域の図書館は利用者のニーズにあわせてということであるから、多くのレファレンスワークのレベルが求められなかったと思うが、新しい東口図書館は小田原駅から近い立地であり、小田原に住みたいと考えている人が来館した時に図書館はまちの文化を示す指標にもなる。小田原に使える図書館があることは住みたいまちになる要素の1つになると思う。こうしたことも指定管理者を選定する仕様書には考慮して細かい部分まで要求してもらいたい。

また、指定管理者をコントロールする中央図書館の役割が重要となるが、現状の体制として、かもめ図書館と市立図書館に在籍する司書あるいは認定司書の資格を有する職員の人数や業務内容とともに、指定管理者に求めるレベルなどを説明してもらえるとレファレンスに関する意見を言いやすくなると思う。

図書館長 池田委員のご意見については、次回以降の協議会で説明させていただきたい。

石井委員 資料6の「小田原市図書館運営方針」は説得力があり、よくできていると思う。

昨日、出張で横浜に行ったが、20年前の電車内では邪魔にならないように新聞を折って読んでいる光景が一般的であった。今は皆スマートフォンを見ていて20年前には想像もできなかった。電子メディアが生活の中に入り込んでいる。こうした中で「持続可能」という言葉がよく使われているが、持続可能な未来の図書館は想像ができない。

次世代育成の中で「中高生世代の学習活動の支援」と記載されているが、小学校、中学校、高校、大学と進むほど、図書館で本を借りることが少なくなる中で、中高生をターゲットとしていることは素晴らしく、また、中央図書館と東口図書館を対比していることも分かりやすい。

心地よい空間の創出の中で東口図書館に「利便性に優れた」と記載されているが、その点で住民サービスとセットになっていると良いと思った、昔、英会話で流行った駅前留学のような感じで住民票を取得するついでに図書館に立ち寄るといった感じが良いと感じた。

関係機関等との連携で「図書館ボランティアの活動促進」については、図書館を拠

点としたコミュニティが形成される予感がした。図書館活動を通して同じ趣味の人が新たにつながれるのではないかと思う。また、先ほど、忍者の話があったが、小田原は関東大震災など災害、防災ということも特質の1つではないかと思っている。

益田副委員長 私も資料6の「小田原市図書館運営方針」は各館の違いが分かりやすく作成されていると感じた。先ほど、地域資料の保存、研究のところ東口図書館ではデジタル資料を活用していくとの説明があったが、現在、地域資料のデジタル化はどの程度進んでいるのか。

野村副館長 古文書関係の貴重資料を中心に25,000点程度必要であると考えており、平成20年度からデジタル化に着手しているが、現状では1,300点から1,400点程度しか完成していない状況である。古文書を撮影してDVD化しているが、将来的にはホームページやモニターで公開することを考えており、現状では公開までは至らずにコンテンツだけをためている状況である。ここ数年はデジタル化を中断し、コンテンツの活用方法を東口図書館の開館にあわせて検討しているところである。

益田副委員長 大学生もレポートを卓上ですべて書いている時代であるので地域資料もインターネットで公開されていると良いと思った。

野口委員長 大学生もインターネットですべてを済ませようとするが、ネット上にすべての情報があるわけではない。ハイブリッドな使い方ができる利用者を育てる図書館があると良いと思う。

池田委員 小学校、中学校の図書館との連携は進んでいるが、高等学校の図書館とは接点がない。小田原で図書館と高等学校が連携できる仕組みを作っていけると良い。特に東口図書館は立地も良いし、現代的な課題にアプローチできるような図書を集めることから高校生にとって良い図書館になる可能性があると思う。

図書館長 かもめ図書館では西湘高校と連携し、同校の図書委員と連携しておすすめ本という企画を行ったが、良い機会となった。東口図書館の開設に伴って高校生を対象にグループヒアリングを行ったが、多くの高校生から利用したいとの声をいただいた。小田原駅を中心として高等学校や大学との連携を深めたいと考えている。

馬見塚委員 私もすばらしい運営方針だと思う。運営方針に記載されていることのすべてを実現することは大変なことと思うが、頑張って実現してもらいたい。

大塚委員 資料6の「小田原市図書館運営方針」で各館の役割が分かりやすく明確に整理されてきたところで、中央図書館と東口図書館が両輪となって運営方針を具現化することが大切である。例えば、おすすめ本の紹介コーナーを市内の高等学校が輪番で関わってもらうなど具体的な動きが重要になると思う。

野口委員長 重点方針をどのように具現化していくかという点、東口図書館は指定管理者選定の仕様書に落とし込んでいくということであり、中央図書館については別途運営計画などを作成することになるのか。

図書館長 優先順位を考慮して東口図書館が先行的に進むことになるが、地域資料が中央図書館に移転して公開するタイミングにあわせて中央図書館の運営計画に落とし込む形にしていきたいと考えている。

野口委員長 図書館協議会で以前に基本方針を議論した段階で、基本方針1の広範な本や情報の提供の部分に記載されている「資料」と「蔵書」という文言はあえて「本や情報」という文言に置きかえることになったと思うので修正をお願いしたい。また、基本方針5の東口図書館の部分であるが「短時間でも誰もが」と記載したほうが良いと思う。

高校生をどう取り込むかということにも関わるが、先日、おだわら市民交流センターUMECOの前を通ったときに多くの高校生が自習する姿を見かけた。UMECOで自習する高校生を図書館に取り込んでもらいたいと思うが、駅前の図書館だから高校生が来てくれるという待ちの姿勢ではなく、事業化する段階でアウトリーチ的な視点を持ってもらいたい。UMECOに図書館が出張してミニコーナーを設置して良い本に出会った高校生が図書館を訪れるといったアウトリーチ的な視点を持ってもらいたい。

基本方針の6に関わると思うが、例えば、地下街とコラボして目立つところに図書館を知ってもらう展示を行うことも必要でないかと思う。要望として受け止めていただきたい。

7 その他

事務局から、図書館総合歴史講座（3月2日開催）の開催と次回の図書館協議会は平成31年3月7日（木）午後2時から開催することをお知らせした。